

『喜び』も『苦労』とともに分かち合う、『市民参加型』の取り組み

石狩落花生研究会

石狩落花生研究会が生まれたきっかけ

落花生といえば、千葉県など本州の暖かい土地で栽培され、節分の豆まきに用いて年の数だけ食べる固い豆。そんな一般的なイメージが覆されたのは2013年のことでした。現在、石狩落花生研究会（以下、「研究会」という）の事務局を務めるNPO法人ひとまちつなぎ石狩が、当時石狩市と協働で主催した市民講座の受講生が石狩市農業総合支援センターの試験圃場を見学した際に、試験栽培されている落花生を試食せららったのが活動の始まりでした。

落花生が北海道でも育つということ。そしてそれを茹でて食べられるということに驚き、さらに食べた際にその美味しさにまた驚き…。そのときの感動を忘れられず、講座終了時のワークショップで「茹で落花生が美味しかった」という声が多く、それならばと翌年の2014年に支援センターの試験圃場10aで、市民講座の卒業生の有志で試験栽培を行いました。

このとき収穫した落花生の味はまた格別で、落花生を「学び」ながら「育て」「食べ」、その味を近しい人に「広める」という研究会のスタイルは、この時点で確立されています。

そして2015年に北生振の農業者の須藤聖治氏を会長に、【石狩落花生研究会】を設立しました。



【種まき】 1粒ずつ手作業でまきます

会員数の増加と変動

研究会は、一口2千円の会費を支払うことで会員になることができます。期間は申込みをしたその日から収穫までで、一口で10株程度の落花生を収穫することができます。口数に制限はありません。

研究会を始動した2015年の会員数は71名でした。それが活動7年目となった2021年には208名と、約3倍になっています。また、初期は石狩市民が半数以上を占めていましたが、徐々に札幌市民の会員が増えていき、ついに昨年には半数以上が札幌市民という逆転現象がきました。

石狩落花生研究会 会員数・口数一覧

年度	会員数				口数
	石狩市	札幌市	その他	合計	
2015	44	21	6	71	90
2016	53	29	4	86	104
2017	57	46	10	113	147
2018	60	58	6	124	160
2019	69	55	12	136	173
2020	70	67	8	145	188
2021	72	122	14	208	270

会員区分も、月に1、2回の農作業に参加する『作業会員』と収穫のみに参加する『収穫会員』があり、作業会員は作業に参加することにより農作業の大変さを体験することができます。さらに作業した回数分、収穫する株数が増えていくのがこの研究会の特色です。ただ収穫会員が収穫しか来られないと引け目を感じる必要はなく、自らの手で収穫し、それを食べ、美味しいと周囲に広めてくれることも大切な会員としての役割なのです。

天候が及ぼす影響

7年間の活動の中で、頭を悩ませたのはやはり“天候”です。作業を予定している日に悪天候で急遽日程を変更せざるを得ない状況になったり、長雨による日照不足などにより不作の年があったり等、様々です。

落花生という新規の作物に対し、誰も専門知識はありません。『研究会』というその名の通り、一年一年の結果を踏まえて研究を重ねるのみです。

毎年最後の活動日に“学習会”を開催し、その年の気候やそれに伴う生育状況などを支援センターの臼澤茂明氏から学んでいます。

作業に参加し日々の天候と落花生の生育が結びつき、さらに学習会での学びにより、収穫に向けて「期待」または「覚悟」を持つことができるのです。

作業や学習会に参加できない会員のため普段の活動をFacebookで発信したり、収穫の案内と一緒に生育状況をまとめた資料を送付するなど、できる限り会員と情報を共有することにしています。

コロナ禍によっての変化

2020年の活動より、新型コロナウイルスの感染拡大防止を強く意識した活動が求められました。緊急事態宣言下でも農作業の時期を変更することはできません。今までであれば数人のグループで行っていた作業も、1人1人距離を保ちつつ作業できるスタイルに変更するなど細心の注意を払って活動を継続しています。

屋外の活動であること、現地集合・現地解散であることで、もともとコロナ禍でも参加しやすい環境ではありました。広い畑の中でも密を避けるという工夫をすることにより会員はもちろん、会長やスタッフ側



土壤の水分不足により
『生理障害』を起こした落花生の葉

の安心にも繋がりました。

また、三度目の緊急事態宣言が明けた後の収穫期間には、たくさんの家族連れの姿がありました。このコロナ禍でこども達の貴重な時間が奪われ続けています。こども園や学校の行事はもちろん、町内会などの季節を感じるイベントはことごとく中止になっており、落花生を収穫することで少しでも“秋”を感じることができたのであれば嬉しく思います。

近所の認定こども園の年長児も収穫体験に訪れ、元気いっぱい収穫を楽しんでくれました。残りわずかな園生活の思い出を作るお手伝いができたのではないしょうか。



地元の認定こども園の園児による収穫体験

これから研究会が目指すところ

2021年、石狩は記録的な猛暑と干ばつに見舞われました。7月の降水量がほんの数mm程度しか無く、落花生はもちろん様々な作物に深刻な被害をもたらしました。会長の農園も例外ではありません。

今後は研究会の会員をはじめとする市民（消費者）に、落花生の収穫期に合わせて他の作物の収穫体験など抱き合いで案内ができる仕組みを構築したいと考えています。

そして引き続き会員や会員の家族、市内外問わずたくさんの人達の笑顔を生む場で在り続けることができるよう邁進して参りたいと思います。



【石狩落花生研究会】Facebookページ